

スポーツ界が抱える人権に対する課題

オリンピックに参加する女性はもとより、スポーツ界での女性人口も昨今増えつつありますが、それに伴って問題も生じています。

例えば、女性アスリートの健康面では、エネルギー不足・無月経・骨粗しょう症などが指摘されます。運動で消費するエネルギーに見合った食事を摂取するのは言うまでもないですが、新体操やフィギュアスケートでは「見映え」を意識して、適切な食事が摂取されていないとの報告があります。無月経や疲労骨折などについても、スポーツドクターや産婦人科医などが中心となり、女性アスリートの健康維持を支援する取組が進められているようです。

また、アスリートが結婚・出産を経て競技に戻りたいときに、練習時間や保育施設の確保など、競技に専念できる環境が得られないこともしばしばあります。その結果、キャリアから離脱することになり、企業に勤める女性社員と同様の問題が起きています。

選手団に占める女性コーチの割合はオリンピックで約10%、パラリンピックで約20%という低い現状です(図1)。しかし、女性コーチが増えれば、アスリートが結婚・出産を経て競技に戻りたいときに、練習時間や保育施設の確保など、競技に専念できる環境が得られないこともしばしばあります。その結果、キャリアから離脱することになり、企業に勤める女性社員と同様の問題が起きています。

スポーツ界でのこうした公表は、性的マイノリティの存在を広く意識させ、トイレや更衣室の改善などに繋がりました。とはいえ現在のルールでは、「トランス女性」が女子種目に参加する場合、男性ホルモンの保持など厳しい条件が課せられています。

以上のようオリンピックに限らずスポーツ界は多くの問題を抱えています。しかも、人種差別に性的マイノリティ差別にしても、これは人類全体が抱える課題です。

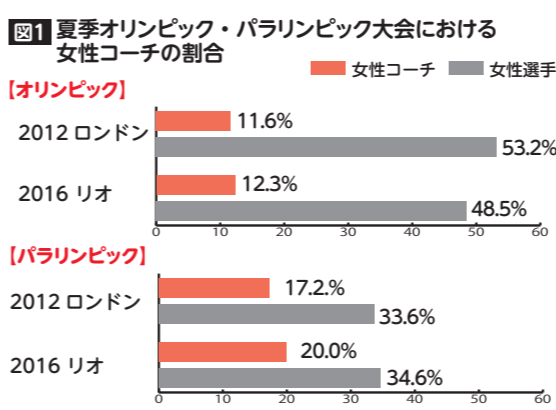
だれもがスポーツ観戦を楽しめるように、これらの課題を踏まえながら、本来のスポーツの祭典の意義をあらためて考えてみませんか。

国際的なスポーツ大会であるオリンピック・パラリンピックは、選手の巧みな技に感動しフェアプレイを讃えながら、国同士の友好や連携を図る場です。同時に、人種や性別、文化や習慣、障害の有無などさまざま

ば、選手の体調なども直接把握できないため、現在官民双方で進められている女性コーチ育成の取り組みに期待されています。

このほか、年収の男女格差はスポーツ界でも見られます。遠征費や施設使用料などのほか、障害者アスリートなら、義足や車椅子などの購入やメンテナンスにも出費がかかります。そのうえ車椅子利用のアスリートたちは、利用できる施設の確保も課題で、床が傷むなどの理由で使用を拒否されることも多いといわれています。

以上のような課題とともに、前述の人種差別、さらにはLGBTQな



(引用) 男女共同参画局資料より抜粋

す。「トランス男性」(出生時に割り当てられた性別は女性だが、性自認は男性の方)にはこうした条件は一切つけられていません。

また、アメリカの「Black Lives Matter」を受けて、最近テニスの大坂なおみ選手がマスクで人種差別への抗議の意思を示したことは世界が知るところです。アスリートとしてロールモデルの役割を果たしましたが、東京大会ではこの問題にどんな反応が出るでしょう。

まな違いを受け止め、互いに尊重することを学ぶ機会でもあります。スポーツを通してこのような他者理解が進めば、それまでの偏見も薄れるでしょう。スポーツの世界で調和が生まれれば、私たちの身の周りにも多様性の理解と尊重が広がり、ひいては世界の平和にも繋がるかもしれません。

異なる者が互いに認め合い、個性を活かし合い、支え合う。私たち一人ひとりが、そんなダイバーシティ(=多様性受容)社会を実現させる最初の一步を踏み出していきたいと思います。

自分らしく思い描くことを実現させ、楽しく生きることをモットーに！



体操選手
宮川 紗江さん

1999年生まれ
2002年(2歳)
体操競技を始める
2013年(13歳)
女子ジュニアナショナル選手となる
2014年(14歳)
第53回 NHK杯体操選手権 出場
南京ユースオリンピック 出場
全日本体操種目別選手権大会 出場
2016年(16歳)
リオデジャネイロオリンピック 出場

皆さんこんにちは、女子体操選手の宮川紗江です。私はここ西東京市生まれの現在21歳です。

『人権』というテーマについて子どもの頃はそんなに考える機会もなかったのですが、大人になるにつれて体操競技で色んな経験をさせてもらうことができ、考える機会をたくさんいただきました。

その中で最も印象的だった出来事が私が出場した2016年リオデジャネイロオリンピック大会で起きました。これは世界的にもニュースになったのですが、韓国代表の選手と北朝鮮代表の選手が試合後

に肩を組んで写真を撮りSNSに投稿したということがありました。この時私はこれがオリンピックなんだ！オリンピックは勝負の域を超えた特別で素晴らしい場所なんだ。と感じたのを覚えています。

オリンピックは『世界平和』がテーマとして掲げられています。ですが、まさにそれを体感できた経験となりました。2014年に中国の南京で行われたユースオリンピック大会(ジュニアのオリンピック)にも出場したのですが、そこでは競技以外にも世界中の文化やオリンピック意義について触れて『この経験を自分の国で広

めてください』というプログラムを必ず受けることになっています。ですので、この記事を書きかけに、今後広めていけたらなと思います。

日本では当時、中国が反日で危険だというニュースが頻りに放送されており、出国前にも日本人と分かるような物は身に付けないなどのレクチャーを受けて怖かったです。いざ行ってみるとニュースで見ている世界とは別世界というか、中国の方はみんな親切で日本人である私も凄く仲良くしてくれました。印象が180度変わった瞬間でもありました。

私は今まで10カ国以上海外遠征を経験させてもらったのですが、どの国へ行っても人々は優しく、人種は関係なしに同じ人間として接してくれるので、思っている以上に世界って平和なんだなと思いました。もちろんそうでない部分もあるとは思いますが、自分の体感としては現地に行けばみんな優しい心を持っていると感じました。

今現在の「コロナ禍」の状況で東京2020大会が開催され

るか分からないのですが、もし開催されれば世界中の人々を温かく迎え入れて素晴らしい大会になる事を願っています。そして私も出場してより多くのことを広めていけたらなと思っています。

また、男女差についてですが、私は男女で何が違うかなどをそもそも意識しておらず、自分らしさを思い描くことを実現させていくために日々楽しく生きる事をモットーとしています。それぞれが『自分らしく』をテーマに、自分の良さを目を向けて、充実した日々を送ればそれで良いのかなと思っています。

逆に言えば女性も男性と同じように活躍できるという事です。し、男性として、女性として、というよりも、私は今後も変わらず自分がやりたい事を自分らしく楽しんでやっていきたいと考えています。

成功も失敗も自分にとっていっつも大切な経験ですので、皆さんも自分自身の人生を自分らしく楽しんでもらえたらなと思います。

※東京2020大会開催については、2021年1月現在の情報を元に記事を作成しています。